

揖斐農林事務所の普及活動状況 令和4年3月18日現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■新規就農者 現地状況確認

3月16日に、就農支援サポートチームが池田町3件の新規就農者に対して現地確認を行った。その内容は、令和3年度の下期生産状況について、栽培中の各品目（イチゴ、コマツナ、ブロッコリー他）の確認をしながら新規就農者から報告を受け、サポートチームからアドバイスをを行った。それぞれが技術の確立と経営の安定を目指し様々な取り組みを行っているが、病気や獣害、天候不順等で計画通りに進まない面も多く、今後も、1人1人の状況に合わせたきめ細やかな支援を行う。



【コマツナ生産の様子】

■法人の経営支援 農業経営者サポート事業

ぎふアグリチャレンジ支援センターが実施する農業経営者サポート事業を活用し、(有)サポートいびの経営診断を行っており、3月4日に株式会社ビッグアームの講師から改善方針が提案された。

(有)サポートいびは、提案に基づき経営改善に取り組むとともに、来年度も本事業を活用し、就業規則の策定に取り組む意向であり、継続的に支援を行う。



【経営診断の様子】

■担い手 農業婦人クラブ役員会の開催

3月14日に農業婦人クラブ理事会が開催された。令和3年度活動実績を確認し、令和4年度の計画について打ち合わせを行い、4月の総会に向けた支援を行った。

また、3月8日～17日に、地域の希望者を対象にみそづくり教室を6回開催した。体験者の中から新たに令和4年度から加入を希望する人も現れた。

農業普及課では引き続き地域に根ざした農業婦人クラブ員の活動を支援していく。



【役員会の様子】

■スマート農業 農業DX化フォローアップ研修

3月17日に、農政課主催の農業DX化フォローアップ研修が、オンラインにてサテライト会場のJ Aいび川大野営農経済センターで開催された。

揖斐管内では、いちごと柿で環境モニタリング装置を設置し、データ収集と分析により栽培改善等に繋げていくことを目的に農業普及課で支援をしている。

今回、13名の生産者が出席し、春から秋に向けた環境管理やポイントなどの説明があり、理解を深めた様子であった。農業普及課では、講義内容を参考にし栽培改善に向けて、支援を行っていく。



【研修会の様子】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■いちご 出荷最盛期に向けた過熟果対策

各地区で春期の出荷に向けた目揃え会が、3月11日、18日に行われた。これから気温が上昇し、最も出荷量の増えるため、市場から品質保持のため着色基準を順守することの依頼があり、農業普及課からは栽培管理上の過熟果対策・春期の管理について説明を行った。

関係機関と連携をしながら、今後も良品質ないちごが継続して出荷するため支援を行っていく。



【目揃え会の様子】

■トマト 施設園芸省エネ設備導入支援事業による省エネ施設導入

国際情勢の先行き不安も重なり、燃油の価格高騰が続いている。冬期加温に燃油を使用する施設園芸農家は、経営費に占める燃料費の割合が高く、燃油価格高騰の影響を大きく受けている。施設園芸等燃油価格高騰対策が実施され、揖斐郡の4戸の野菜栽培農家等では事業認定を受けている。加えて、施設園芸省エネ設備導入支援事業により4段サーモ装置や内張カーテン施設などの省エネ機器が導入された。

今年度は、燃油価格の高騰に加えて、天候不順も続き、燃油の消費量も多くなった上、トマトの単価が安く経営を圧迫しているが、1月はセーフティネット構築事業が発動され、経営負担軽減の一助となった。



【制御装置の設置】

中山間地域を守り育てる対策

■徳山なんば（とうがらし） 加工品販売開始

新たな特産品として開発を進めていた徳山在来とうがらしの名称が、「徳山なんば」と決まり、3月12日から道の駅ふじはしで販売が開始された。販売初日は、イベントが実施され、「徳山なんば」の加工品購入者には、徳山なんばキャラクターがプリントされたオリジナルバックが配布された。訪れた買い物客は一般の赤とうがらしより遥かに辛い「徳山なんば」の特徴を生かした激辛のせんべい、焼き肉のタレ、ソーセージに、関心を寄せていた。

今後、順次加工品の種類を増やす予定であり、ブランド確立を目指す。



【道の駅ふじはしでの販売イベント】